

平成25年10月22日

# 平成25(2013)年度 第2四半期業務報告

自 平成25年 7月 1日  
至 平成25年 9月30日

本書は、放送法第39条第3項（会長は3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を経営委員会に報告しなければならない）に基づき「平成25年度収支予算と事業計画」の進捗状況を報告するもので、金融商品取引法によって上場企業等に義務付けられている四半期財務報告とは異なります。

平成25年度第2四半期の「収支の状況」については、11月の「平成25年度中間決算」において報告します。



日本放送協会

# 豊かで安心、たしかな未来へ 平成24～26年度 NHK経営計画

## 3か年の基本方針

信頼される公共放送として、  
放送機能の強化と放送・サービスのさらなる充実を図り、  
豊かで安心できる社会の実現と  
新しい時代の文化の創造に貢献します

## 4つの重点目標

### 1.「公共」

安全・安心を守るなど公共放送の機能を強化するとともに、東日本大震災からの復興を支援します

### 2.「信頼」

世界に通用する質の高い番組や、日本、そして地域の発展につながる放送・サービスを充実させます

### 3.「創造・未来」

放送と通信の融合時代にふさわしい、さまざまな伝送路を利用した新たなサービスを充実させます

### 4.「改革・活力」

- ① 効率的な経営を行い、公共放送の価値を最大に高めます
- ② 受信料を公平に負担していただくため、営業改革と受信料制度の理解促進に努めます
- ③ 放送・サービスの質を向上させるため、活力ある職場づくりをすすめます

# 目次

●	「3か年の基本方針」の達成状況を測る世論調査について	3
<hr/>		
1	今期の概況	5
2	営業目標の達成状況と収支概況	6
3	「4つの重点目標」の達成状況	8
▼	「公共」	
	安全・安心を守るなど公共放送の機能を強化するとともに、東日本大震災からの復興を支援します	9
▼	「信頼」	
	世界に通用する質の高い番組や、日本、そして地域の発展につながる放送・サービスを充実させます	11
▼	「創造・未来」	
	放送と通信の融合時代にふさわしい、さまざまな伝送路を利用した新たなサービスを充実させます	13
▼	「改革・活力」	
	① 効率的な経営を行い、公共放送の価値を最大に高めます	16
	② 受信料を公平に負担していただくため、営業改革と受信料制度の理解促進に努めます	17
	③ 放送・サービスの質を向上させるため、活力ある職場づくりをすすめます	19
<hr/>		
4	参考資料	20
	各指標	21

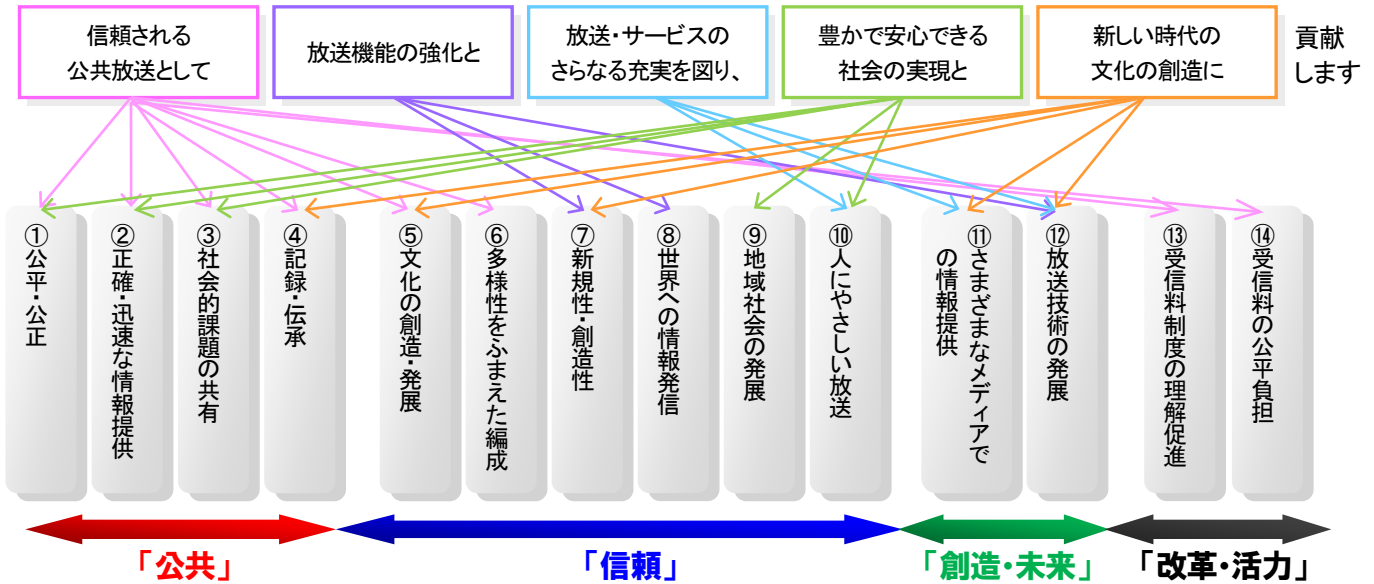


# 「3か年の基本方針」の達成状況を測る世論調査について

今回の3か年経営計画では、視聴者のみなさまのNHKに対する期待を的確に把握し、NHK全体で応えていくことをめざしています。

このため、「3か年の基本方針」に示した公共放送の使命・役割について14の指標を設け、半期ごと（7月・1月）に世論調査を実施します。14の指標それぞれについて、NHKに対する期待度と実現度を視聴者のみなさまに尋ね、計画の進捗状況を検証します。みなさまからのNHKへの期待度に、実現度をできるだけ近づける（期待度と実現度の差を縮める）ことを目標に、事業運営や業務改革を進めていきます。

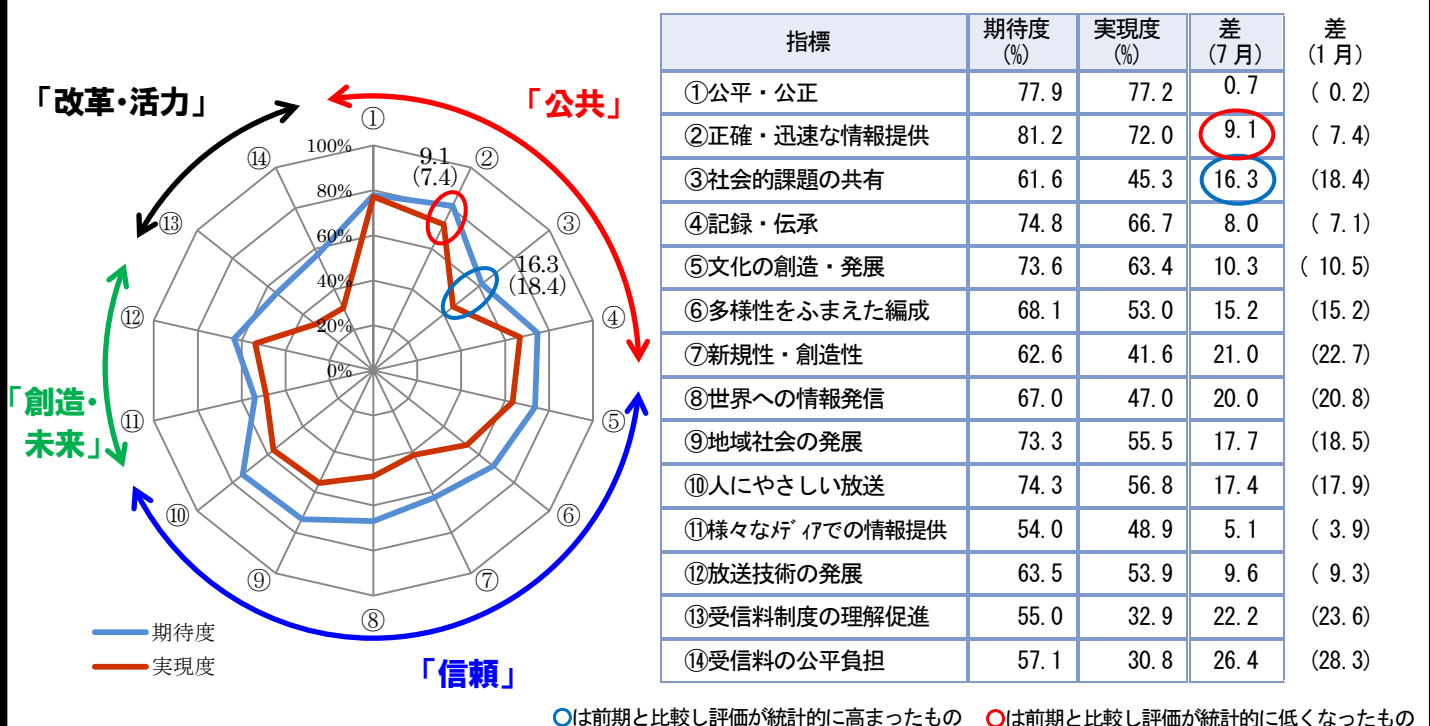
## 【3か年の基本方針と14の指標】



## 7月に実施した世論調査の結果

▽全国の16歳以上の男女個人3,600人を対象に、7月6日～29日に世論調査を実施。※

▽各指標の設問に対し、「期待している」と「どちらかという期待している」と回答した人の割合を「期待度」、「実現している」と「どちらかという実現している」と回答した人の割合を「実現度」とする。



○は前期と比較し評価が統計的に高まったもの ○は前期と比較し評価が統計的に低くなったもの

※層化2段無作為抽出法で抽出し訪問留置法で実施。有効回答数は1,795件（有効回答率49.9%）。

## 世論調査の結果について

14の指標は、これまでの調査で視聴者の期待が高いものと、やや低めに出るものに分かれている。このうち「①公平・公正」をはじめ、期待度が高いグループではおおむね実現度の評価も高く、全体としては堅調に推移しており、公共放送の使命や役割について評価がなされているものと考えられる。

今回の7月の世論調査を1月に実施した世論調査と比較すると、「③社会的課題の共有」については期待度と実現度の差が改善した。一方、「②正確・迅速な情報提供」については期待度と実現度の差が大きく改善した前期から後退し、差が拡大した。ただし、この指標と関係の強い国内放送の質を測る10指標の評価は安定的に維持されており、接触者率も総合テレビ等で向上している。このため、今回、差が拡大したのは、世論調査が参議院議員選挙の期間中で、政見放送等による番組編成の大幅な変更が一時的に影響したためと考えられる。

### ■「社会的課題の共有」の分析

◇「③社会的課題の共有」の評価は、国内放送の質・量を測る10指標評価と接触者率（☞21頁参照）を分析すると、以下の事由により期待度と実現度の差が改善したと考えられる。

- ・総合テレビでは、「丁寧に取材・制作されている」「正確な情報を迅速に伝えている」「社会的な課題について考えさせられる」の各項目で高い評価を維持しつつ、接触者率が向上した。これは、「ニュース（正午）」「NHKニュース7」などの報道・解説ジャンル、「あさイチ」「マサカメTV」などの生活社会情報ジャンル、「総合診療医ドクターG」などの教養・福祉ジャンル、「クローズアップ現代」といった大型企画ジャンルが貢献したと考えられる。
- ・BS1では、「正確な情報を迅速に伝えている」が高い評価を維持した。これは、「BS列島ニュース」「島耕作のアジア立志伝」といった報道・解説ジャンルが貢献したと考えられる。

### ■「正確・迅速な情報提供」の分析

- ・「②正確・迅速な情報提供」の評価は、国内放送の質（10指標評価）と量（接触者率）の評価に関係性があることが、これまでの調査により明らかになっている。しかし、今回の世論調査における「②正確・迅速な情報提供」の期待度と実現度の差は拡大したが、国内放送の質と量の評価は安定的に維持されており、矛盾が生じている。
- ・今回の世論調査期間は、政見放送等により通常編成が行われなかった選挙期間を含んでいるため、「②正確・迅速な情報提供」について選挙期間中と選挙後の期待度と実現度の差を比較・分析した。その結果、選挙期間中に回答した人の期待度と実現度の差は拡大していたが、選挙後に回答した人の期待度と実現度の差は縮小傾向にあった。
- ・また、第2四半期全体の総合テレビの接触者率は68.9%だったが、選挙期間中は65.5%※に低下した。
- ・これらを総合的に分析すると、選挙期間中の政見放送等による編成の大幅変更により、一時的に「②正確・迅速な情報提供」の期待度と実現度の差が拡大したものと考えられる。

※ 出所：ビデオリサーチ（関東PMデータ）

### 課題・今後の取り組み

- ・14の指標の期待度と実現度の差を見ると、「②正確・迅速な情報提供」と「③社会的課題の共有」以外は、安定的に推移している。
- ・「②正確・迅速な情報提供」は選挙期間の影響を受けたが、他の指標で評価が悪化したものがないことから、選挙期間の影響は主に「②正確・迅速な情報提供」に対してのみ現れたと考えられる。



# 1 今期の概況

## 今期の総括

3か年経営計画が折り返し点を迎え、重点目標に沿って整備した施設やサービスの運用が始まっている。安全・安心の面では、本部の代替機能を担う大阪局やさいたま局等の機能強化が進み、さいたま局の報道別館からは初めてラジオ番組を送出した。各局で準備を進めていた「ライフライン情報」については、夏の台風や豪雨災害の際にデータ放送やラジオを通して視聴者に提供した。新たなサービスとして、スーパーハイビジョン（SHV）のコンテンツ制作を進め、パブリックビューイング等を通じて、その魅力をアピールしたほか、9月には放送と通信を連携させる「ハイブリッドキャスト」をスタートさせた。番組面では連続テレビ小説「あまちゃん」が社会現象とも言える人気を博した。営業改革では法人委託の拡大に取り組み、契約総数増加・衛星契約増加とも前年同期を上回る堅調な業績となっている。

### 〔今期の主な取り組み〕

#### ■「公共」

- ・初の「特別警報」が発令された台風18号や関東各地で起きた竜巻などの自然災害では、特設ニュースを編成して警戒を呼びかけ減災報道に努めたほか、各放送局ではテレビ、ラジオ、インターネットなどを通じて避難所や停電、交通機関等の「ライフライン情報」を伝えた。
- ・本部代替機能では、全国のロボットカメラの映像を確認するためのサーバーを大阪局にも整備したほか、6月に完成したさいたま局の報道別館からは防災の日のラジオ番組を送出した。

#### ■「信頼」

- ・7月の参議院議員選挙では、いち早く「自民・公明が過半数獲得」を打ち出し、最終結果を見通す形で伝えた。また、初のネット選挙に関連して、「開票速報」や「クローズアップ現代」などでビッグデータを分析する等の新機軸を打ち出した。
- ・連続テレビ小説「あまちゃん」は高視聴率を得て各種メディアやネット上でも評判を呼ぶとともに、東日本大震災と被災地の復興を盛り込んだ内容面でも高い評価を得た。

#### ■「創造・未来」

- ・9月2日に「ハイブリッドキャスト」のサービスを開始した。また、今後のサービスの高度化に向けて、放送中の番組の時差再生等の新たな認可を総務大臣に申請した。
- ・映像・音声素材を従来のVTRからサーバー上のファイルに置き換える「番組系ファイルベースシステム」がスタート。番組制作や送出における作業効率や信頼性の向上につなげていく。
- ・東京オリンピックの開催決定でSHVへの注目が集まっている。SHVでは、沖縄・石垣島で初の水中撮影に成功したほか、ミラノ・スカラ座のオペラのパブリックビューイングを実施するなど実用化に向けた取り組みを加速させている。

#### ■「改革・活力」

- ・営業改革では、NTTファイナンス社との連携により、受信料を電話料金と一括して支払うことができる仕組みを構築。10月から受付可能となる。
- ・効率的なグループ経営を推進するため、NHKグループ各社の事務系システムの統合と事務系共通業務の集約の準備を進めている。

## 営業目標の達成状況

第2四半期は、契約総数増加、衛星契約増加とも、年間増加目標に対する進捗率が65%を超え、前年同期を上回る堅調な業績となっている。25年度も値下げの影響が続くため、年度当初から、転居世帯や新規独立世帯に対する契約取次活動の強化を図るとともに、番組制作やイベントなどの機会を活用した受信料制度の理解促進活動に積極的に取り組んだ。

その結果、契約総数は第2四半期で15.9万件増加し、9月末累計で33.8万件の増加となった。年間増加目標48万件に対しては進捗率70.5%となり、前年同期の進捗率を上回った。

衛星契約増加については、訪問活動に加えて文書や電話等による衛星契約勧奨活動を強化するなどして、第2四半期で19.6万件増加し、9月末累計では、前年同期を若干上回る45.1万件となった。年間増加目標69万件に対する進捗率では、前年同期を上回る65.3%となった。

受信料値下げによる減収影響を最小限にとどめるため、引き続き営業活動の一層の強化に取り組んでいく。

## 〔受信契約の状況〕

(単位 万件)

契約増加件数	24年度 第2四半期			25年度 第2四半期			現在数
	年間増加目標	累計実績	進捗率	年間増加目標	累計実績	進捗率	
契約総数	45	30.9	68.7%	48	33.8	70.5%	3,849
衛星契約※1	72	44.7	62.1%	69	45.1	65.3%	1,751
未収削減 (9月末値)	△20	△10.0	50.1%	△16	△9.2	57.1%	147

※1 衛星契約とは衛星系および地上系によるテレビジョン放送の受信についての放送受信契約

## 受信料の概況

第2四半期は、効率的な業務体制の構築に取り組み契約収納業務を実施したことなどにより、前年同期と比べ契約総数や衛星契約数は増加したものの、24年10月からの受信料値下げの影響により、前年同期と比べ129億円減収の3,167億円（予算進捗率50.9%）となった。

## 〔受信料収入（速報値）〕

(単位 億円)

区分	予算	第2四半期 (7~9月)	第2四半期 累計(4~9月)	進捗率
25年度	6,221	1,589	3,167	50.9%
24年度	6,269	1,654	3,297	50.8% ※2

※2 24年度の受信料の進捗率は、24年10月以降の受信料値下げの影響を踏まえた進捗率に補正





### 3 「4つの重点目標」 の達成状況

## 1. 「公共」 安全・安心を守るなど公共放送の機能を強化するとともに、東日本大震災からの復興を支援します

### 第2四半期の達成状況

放送センターが機能停止した時の代替機能を担う大阪局のロボットカメラ映像を一覧できるモニタリング装置のサーバー工事等、計画的に設備整備を進めた。「防災の日」に合わせ動員計画や整備した設備を活用した訓練を実施し、ハードとソフトの両面から機能強化を進めた。NHKスペシャルなどの番組を通じて、継続して東日本大震災の検証や復興の支援に貢献した。災害の映像・証言を記録する「東日本大震災アーカイブス」も充実した。

#### ■いかなる災害時にも対応できる放送設備と体制の強化

◇首都直下地震を想定して、放送センターの代替機能を担う大阪局の設備の増強や首都圏の取材・制作・伝送機能等の強化を図るとともに、南海トラフ巨大地震等を想定した設備の機能強化を進めた。

- ・大阪局で全国に設置したロボットカメラ映像を一覧できるモニタリング装置のサーバー工事を9月中旬に開始。
- ・さいたま局に新設した報道別館の簡易ラジオ制作・送出設備整備を完了し、「防災の日」(9/1)に初の送出を実施。
- ・長時間停電時にもロボットカメラを使用できるように、自然エネルギー利用型(愛媛県伊方町等)や燃料電池型(宮城県女川町等)への電源強化整備を推進。
- ・津波による浸水リスクの高い放送局で放送を継続するため、高松、徳島、函館局で代替取材・放送拠点(サブステーション)の高台等への整備に関する詳細仕様の調整等を実施、25年度中の完成を目指す。
- ・停電時にも放送を継続するための電源強化対策として、放送センターや千代田放送会館の自家発電機の燃料タンク増量工事の具体化に着手。25年度は11局の放送局で整備予定。



さいたま局報道別館

◇「防災の日」を軸に、整備した設備を活用して、首都直下地震や南海トラフ巨大地震に備えた訓練を実施、運用・実施体制の強化に向けた検討や改善を進めた。

- ・「特別警報」の運用開始(8/30)に備え、「地震・津波・気象警報等速報実施要領」を改定。
- ・大規模災害時に大きな役割が期待されるラジオについて、ラジオカーや放送局からの中継も交えた大規模な緊急放送訓練を実施(8/29)。
- ・放送センターが機能停止した場合を想定し、千代田放送会館からFMとインターネットでライフライン情報を伝える訓練やテレビニュースを制作・送出する訓練を実施(8/29~30)。
- ・インターネットで安否情報を一括検索できるサイト「J-anpi~安否情報まとめて検索~」に、新たに兵庫県西宮市、千葉県市川市、流山市が参加し、1都4市1町に拡大。
- ・大規模停電等の際の自家発電による電源確保のため、燃料配給会社と「災害時における石油燃料の専属配送・専属貯蔵」の契約を締結、7月から運用。配送・給油訓練を実施。
- ・地域局支援として、島根、山口、秋田、岩手各県の記録的な大雨災害の際、現地局に「ニュース制作緊急展開チーム」の要員を派遣し、地域情報の発信を強化。



ライフライン放送訓練(千代田放送会館)

## ■地域の安全・安心に役立つ情報提供

◇7～9月は、記録的大雨、台風、竜巻などの自然災害が多発した。各地の放送局で、地域の安全・安心に関わるニュースや番組、データ放送等で減災報道に努めた。

- ・山口、島根両県（7/28）、秋田、岩手両県（8/9）などで記録的大雨により被害が発生し、台風18号では、より強く警戒を呼びかける「特別警報」が初めて京都府、滋賀県、福井県に出された（9/16）。各地の放送局では、6月に運用を開始した「取材した情報・原稿を一元管理・共有し、放送やデータ放送、ホームページ等にマルチ展開するシステム」を駆使して、最新の避難情報や災害情報、生活情報をきめ細かく伝えた。
- ・埼玉・千葉両県で発生した竜巻被害（9/2）では、3月に運用を開始した動画投稿システム「NHKスクープBOX」を通じてこれまで最多の107本の映像・画像が当日、視聴者から寄せられ、ニュースで繰り返し使用した。

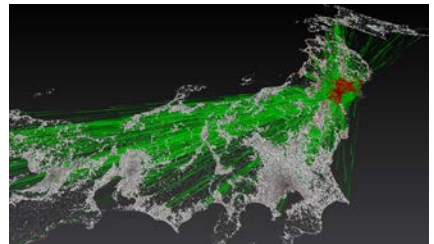


「NHKスクープBOX」を通じて  
視聴者から寄せられた竜巻の映像

## ■東日本大震災を検証し復興を支援する番組

◇「NHKスペシャル」は今期、6本の震災関連番組を放送した。

- ・「MEGAQUAKEⅢ 巨大地震」（8/31, 9/1）は、首都直下のプレート境界型地震や南海トラフ巨大地震の被害予測と予知の可能性を最新科学で迫り、第1回の世帯視聴率（ビデオリサーチ・関東）9.5%など関心を集めた。
- ・「震災ビッグデータ File.2 復興の壁 未来への鍵」（9/8）では、被災地の12万社を含む全国の企業70万社の経済活動を分析し、復興の手がかりを探った。
- ・シリーズ東日本大震災は、「動き出した時間～“旧警戒区域”はいま～」（7/26）、「亡き人との“再会”～被災地 三度目の夏に～」（8/23）、「津波から命を守れ～浸水域に暮らす人々～」（9/27）の3本を放送。被災地の人々の今に密着し、復興への課題を伝えた。



NHKスペシャル  
「震災ビッグデータ File.2  
復興の壁 未来への鍵」

◇国際的な関心を集める東京電力福島第1原発の汚染水や廃炉の問題を多角的に伝えた。

- ・「クローズアップ現代」では、東電内の独占取材で汚染水の最新状況を伝えた（9/11）。
- ・BS1スペシャル「フクシマ・プラン～国際協力チームの廃炉戦略～」（9/16）では、今後の廃炉作業について、各国の専門家の見解、他国の事例など国際的な視点で検証。

◇震災から2年半となる9月には、仙台局をキーステーションに被災地の現状を生中継で伝えた「特集 明日へー支えあおうー ～被災地の今を知っていますか？～」（9/1）、被災者の体験を伝える「いつか来る日のために 証言記録スペシャル リーダーの決断」（9/1）、NHKの復興キャンペーンソング「花は咲く」の海外への広がりや被災地の人たちの姿を伝えたドキュメンタリー「花は咲くスペシャル」（9/11）などの特集番組を放送した。

## ■災害の映像・証言を歴史的資料として記録し保存・活用

◇公開ホームページのサイト「東日本大震災アーカイブス」の動画は、証言者が327人、災害や復興のニュース映像が653本に達した。「防災・減災を学ぶ」特集ページは、三重県の市町村防災担当者の勉強会（8月）で活用されるなど広がりを見せた。

### 課題・今後の取り組み

機能強化のための設備整備を計画的に実施するとともに、整備した設備の平時からの活用などを通じて、いざという時の運用・実施体制の構築に向けた取り組みを推進する。各地の放送局でも、地域の安全・安心に役立つ情報提供を引き続き強化していく。東日本大震災を検証し復興を支援する番組の制作も進める。



## 2. 「信頼」 世界に通用する質の高い番組や、日本、そして地域の発展につながる放送・サービスを充実させます

### 第2四半期の達成状況

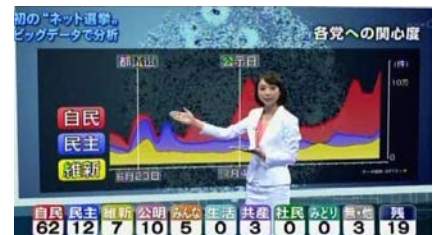
参議院議員選挙や2020年オリンピック開催都市決定に際して、正確・迅速な報道を実施。被災地・三陸地方が舞台の連続テレビ小説「あまちゃん」が社会現象とも言えるブームを巻き起こした。チャンネル別の接触者率は総合テレビで若年層などが前期（第1四半期）から若干回復。Eテレも前期を上回り、BSプレミアムは引き続き順調。BS1が前期をやや下回った。

#### ■確かなニュースや多様で質の高い番組

##### 【総合テレビ】

★主な編集方針：“生活に欠かせないチャンネル”として正確な情報を伝え、日本・世界の課題を考えるニュースや番組を継続・強化。文化・教養・娯楽番組などバランスよく編成。

- ・第23回参議院議員選挙（7/21）の開票速報番組では、投票終了直後の午後8時過ぎに「自民・公明が過半数獲得」など、大勢をいち早く伝えた。さらに、初のネット選挙運動と有権者の投票行動を、独自のビッグデータ分析で検証。視聴率もテレビ各社のトップで、公共放送の信頼をさらに高めた。
- ・2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市を決めるIOC総会を終夜にわたり放送（9/7～8）。東京開催が決定した早朝5時台の平均視聴率が10.3%、「おはよう日本」7時台も20.6%を記録するなど、視聴者の関心を集めた。
- ・連続テレビ小説「あまちゃん」は、放送が進むにつれ各種メディアやネット上で評判を呼び、視聴率も上昇。第2四半期の平均視聴率21.4%、最高27.0%を記録した。ほかの旅番組や情報番組、音楽番組などとも連動し、被災地の復興支援やNHKへの親しみ向上につながった。
- ・ドラマ10「激流～私を憶えていますか？～」、「ガラスの家」が30代以上の女性によく見られ、同ドラマ枠の今期の平均視聴率は8.4%と、前期から2.2ポイント上がった。
- ・8月、戦争と平和を考える「NHKスペシャル」5本を編成。元国連難民高等弁務官・緒方貞子さんの人生を通して戦争の悲惨さを浮き彫りにした「緒方貞子 戦争が終わらない この世界で」（8/17）や、「終わりなき被爆との闘い～被爆者と医師の68年～」(8/6)、「従軍作家たちの戦争」(8/14)など、知られざる事実を掘り起こし、多角的に伝えた。
- ・迫真の映像でダイオウイカ、深海ザメの生態を追ったNHKスペシャル「シリーズ深海の巨大生物」（7/27, 28）は、視聴率9.5%、11.1%で、若年層にもよく見られた。
- ・親子での視聴を想定して今年度スタートした土曜夜間の番組の視聴率は、「マサカメTV」が前期に比べ1.5ポイント上がったのをはじめ、「伝えてピカッチ」「突撃！アッとホーム」も上昇した。内容面と認知度のさらなる向上を目指す。



第23回参議院議員選挙 開票速報



連続テレビ小説「あまちゃん」



NHKスペシャル「緒方貞子 戦争が終わらない この世界で」

## 【Eテレ】

★主な編集方針：青少年・子どもの健全な育成に資する番組、人々の知的関心に応える番組、文化・芸術の継承・発展に資する番組、福祉番組などを編成。教育放送の役割を強化。

- ・「いじめを考えるキャンペーン」の一環で「いじめをノックアウトスペシャル そろそろマジで動きましょよ！～めざせ100万人の行動宣言～」(9/7)を生放送。視聴者からの「行動宣言」は、放送終了までに1万4,000件が寄せられた。



「いじめをノックアウトスペシャル  
そろそろマジで動きましょよ！  
～めざせ100万人の行動宣言～」

## 【BS1】

★主な編集方針：「生にこだわったスポーツ」「世界の今を伝える国際情報」「報道の背景を深く掘り下げる番組」の3つの柱を軸に、新規視聴者層を開拓する番組編成を目指す。

- ・視聴率全体に大きな変化はないが、米大リーグは60代以上、プロ野球中継は40代以上の男性、Jリーグ中継は20歳未満の男女や30～40代男性に引き続きよく見られている。

## 【BSプレミアム】

★主な編集方針：本物志向の教養・娯楽チャンネルとして、個性や魅力を追求し、競争力のあるコンテンツをこれまで以上に充実。幅広い層の視聴者の獲得を目指す。

- ・「にっぽん縦断 ころろ旅」や「にっぽん百名山」が40代によく見られた。「クイズ面白ゼミナールR」(7/20, 8/17)は70代女性に、「零戦～搭乗員たちが見つめた太平洋戦争～」(8/3, 10)は若年層にもよく見られるなど、多彩な特集番組も視聴者層を広げた。

◇ビデオリサーチの接触者率(個人)は、総合テレビで前期に減少していた4～19歳と40代の男性で若干回復。Eテレも前期を上回った。BS1はサッカーのコンフェデレーションズカップがあった前期からやや低下。BSプレミアムは順調に伸びている。

## ■地域の再生、地域の活性化への貢献

- ・広島発ドキュメンタリードラマ「基町アパート」(8/24)、大阪発土曜ドラマ「夫婦善哉」(8/24～9/14)、福井発BSプレミアムドラマ「恐竜せんせい」(9/4)を全国放送。広報活動やイベントを通じ地域の活性化につなげた。
- ・仙台局は、BS1で中継したプロ野球・東北楽天のパ・リーグ初優勝試合(9/26)を急ぎよ、総合テレビ(東北ブロック)でも放送し、仙台地区の最高視聴率が26.5%を記録。当日深夜に特集番組も編成し地域の視聴者の期待に応えた。



福井発地域ドラマ「恐竜せんせい」

## ■国際発信力の強化、国際展開によるNHKのブランド力の向上

- ・外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」で、8月に米ロサンゼルスで24時間サービスを開始し、330万世帯で視聴可能になったのをはじめ、タンザニア、イスラエル、オーストラリアでサービスを拡充。全世界での視聴可能世帯は、この半年でおよそ2,000万世帯増え、2億6,586万世帯となった。
- ・欧州最大の日本イベント「ジャパンエキスポ」(7月・パリ)に出展し、ポップカルチャー系4番組の公開収録とプロモーションを連動。4日間でのべ5,000人がNHKブースに来場し、主催者から「最も成功した企画の一つ」と高い評価を受けるなど、盛況だった。
- ・NHKスペシャル「シリーズ深海の巨大生物」はドイツ、イギリス、オーストラリア、東南アジア各国などで放送され、高視聴率を獲得。国際市場での評価を高めた。

## 課題・今後の取り組み

「総合テレビとBSプレミアムの戦略的な使い分けと連携」「視聴率が上昇傾向にある土曜夜間のファミリー向け番組群のさらなるブラッシュアップ」などの課題について、今期までの評価・分析を踏まえ、26年度番組改定の検討を進めていく。



### 3. 「創造・未来」 放送と通信の融合時代にふさわしい、さまざまな伝送路を利用した新たなサービスを充実させます

放送と通信を連携させる「ハイブリッドキャスト」のサービスを9月2日に開始した。さらに、サービスの高度化に向けて、放送中の番組の時差再生など6類型について総務大臣へ認可申請した。「スーパーハイビジョン」(SHV)の制作手法の確立に向け、クラシック音楽コンテンツや水中撮影などに初めて取り組んだ。人にやさしい放送・サービスを充実させるために、手話CGの分かりやすさの評価を収集できるホームページを開設した。

#### ■放送と通信が融合した新たなサービスの提供と開発

◇放送と通信を連携させる新しいサービスを充実させるため、インターネットの活用などの充実・強化に取り組んだ。

- 放送と通信を連携させる「ハイブリッドキャスト」のサービスを開始。第一段階として、インターネット経由でニュース、気象情報、スポーツ情報、マーケット情報などを組み合わせてテレビ画面上に表示。

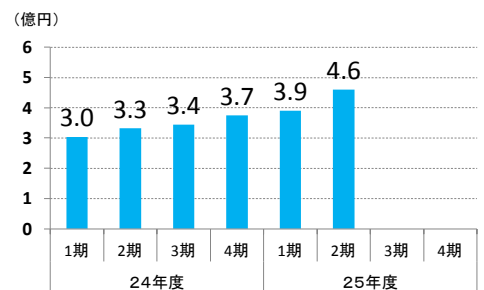
次の段階として、放送中の番組の時差再生や、放送済み番組の動画クリップの提供など6類型について、新たな認可を総務大臣に申請。

- ラジオのインターネット同時配信サービス「らじる★らじる」のスマートフォン用アプリを、5月から開始した地域放送番組(大阪、名古屋、仙台)のサービスに対応するよう改修。

- NHKオンデマンドは、連続テレビ小説「あまちゃん」のヒットや、外部ポータルサイトからのバナー誘導の周知広報を強化したこと等により、視聴料収入は前年同期比139%の4.6億円(速報値)となった。



「ハイブリッドキャスト」のサービス画面



NHKオンデマンド視聴料収入の推移

無料登録会員数: 120万人  
〔前期末+7.4万人〕  
※外部提供事業者を除く

#### ■新たなメディア環境に対応する技術とサービス基盤の確立

◇放送規格を策定する電波産業会において、SHVの映像を高画質、効率的に圧縮するための技術検討でNHKが主導的役割を果たして中間報告を取りまとめ、総務省の情報通信審議会に提出した。

◇「ハイブリッドキャスト」の精密な番組連動機能や、放送局以外の事業者によるサービス提供等の機能拡張に向けて、一般社団法人IPTVフォーラムで仕様の改定を進めた。

◇映像・音声素材をこれまでのVTRテープでなくファイル化して取り扱う「番組系ファイルベースシステム」を構築し、9月から番組送出を開始した。これによって、番組制作の業務フローを効率化し、NHKオンデマンドなどへの円滑なコンテンツ展開につなげていく。



ファイルベースシステムの  
番組送出設備



## ■次世代の超高臨場感放送システムの開発

◇9月にNHKホールで開催されたミラノ・スカラ座によるオペラ「リゴレット」をSHVで撮影し、NHKふれあいホールと仙台局でSHVのライブのパブリックビューイング（PV）を実施した。また、沖縄・石垣島では、水中の美しいサンゴ礁や魚のSHV撮影に初めて成功した。

- ・撮影時の静音性や暗いシーンでの画質を大幅に向上させた「SHVシアターカメラ」の開発により、クラシック音楽コンテンツの制作が可能になった。

◇新潟局（8月）と旭川局（9月）でSHVのPVを実施し、多くの方にSHVを体感していただいた。

◇欧州最大の放送機器展IBC（9月・オランダ）でSHVのPVや、SHVカメラや符号化装置の展示を行い、世界の放送関係者にSHVの可能性についてPRした。



ライブPVの様子（仙台）



SHVシアターカメラ

## ■人にやさしい放送・サービスの拡充

◇7月の参議院議員選挙で、初めて比例代表選挙の政見放送に字幕を付与した。

◇将来の手話サービスを充実させるために、7,000単語の手話CGを検索・表示できるホームページを9月9日に開設し、利用者のみなさまから分かりやすさの評価をいただく取り組みを始めた。

◇「平成24年度の字幕放送等の実績」が総務省から9月18日に公表され、行政指針の対象時間に占める字幕付与の割合は総合テレビ83.5%、Eテレ55.3%と、いずれも字幕拡充計画の計画値を上回った。

◇大阪局と名古屋局に続き、9月30日から福岡局の地域向けニュース番組の一部で字幕付与を開始した。

- ・26年1月から仙台局で字幕を付与するための設備整備を実施。



手話CG評価ホームページ

<http://www.nhk.or.jp/signlanguage/>

## ■テレビ放送の完全デジタル移行後の課題への取り組み

◇地上デジタル放送の難視聴対策「衛星セーフティーネット」が終了する27年3月末までに、恒久対策を実施する。

- ・新たな難視聴世帯への対応として、25年度の対策予定5万世帯のうち、今年度3.1万世帯（当期0.8万世帯）の対応が完了。
- ・24年度末現在、衛星セーフティーネットを利用している共同受信施設153施設のうち、今年度33施設（当期29施設）のデジタル化対応が完了。

◇デジタル放送ならではのサービスとして、Eテレ「ビットワールド」（7/19）で、マルチ編成のサブチャンネルからヒントを見つけ出してゲームに参加する双方向番組を実施した。

## 課題・今後の取り組み

「ハイブリッドキャスト」については、サービスの高度化に向けた準備を進める。SHVは、2016年には実用化に向けた試験放送を、東京オリンピックが開催される2020年には本放送を開始できるよう、次世代放送推進フォーラムでの活動を通して、オール・ジャパン体制で引き続き取り組む。人にやさしい放送のサービス拡充については、利用者の使いやすさをできるだけ反映させる形で、研究・開発を推進する。



### 3 「4つの重点目標」の達成状況

#### 4. 「改革・活力」

##### ① 効率的な経営を行い、公共放送の価値を最大に高めます

##### 第2四半期の達成状況

2年目に入った14の指標による世論調査を7月に実施した。会長のもとで重要な経営課題について検討する「改革と活力委員会」を11回開催。将来にわたってNHKが公共放送としての使命を果たすための最適な資源配分のあり方に加え、番組改定、予算・事業計画、組織改正など、ヒト・モノ・カネを一体として議論した。10月に行う、NHKグループの事務系システム統合と関連団体の事務系共通業務の集約に向け、準備を進めた。

##### ■ 経営計画の達成に向けた評価・管理

- ・ NHK全体が経営計画の基本方針に沿って進んでいるかを評価する14の指標による世論調査を7月に実施し、分析を進めた。10月に「改革と活力委員会」で検証し、経営委員会に報告。

##### ■ 効率的なNHKの業務体制の構築

- ・ 「改革と活力委員会」で組織改正の方向性について、組織のシンプル化、機能の明確化、業務の強化や効率性の観点から議論した。
- ・ 3か年で280人程度の要員を削減するとして経営計画の達成に向け、25年度分として100人の純減を実施した。

##### ■ 効率的なグループ経営の推進

- ・ NHKグループの事務系システム統合と関連団体の事務系共通業務の集約に向け、7月に習熟訓練、8月から9月にかけてテスト、データ移行を行った。
- ・ NHKの関連団体である総合ビジョンの優良アニメコンテンツとNHKエンタープライズの展開力のスムーズな融合を目指し、7月に両社を統合した。
- ・ 好調の連続テレビ小説「あまちゃん」関連商品は250アイテムを上回った。

##### ■ 視聴者のみなさまとの結びつき

- ・ NHKスタジオパークでは、「あまちゃん」『じぇじぇじぇ～展』PART 2、3を開催。番組の展開に合わせてこまめに展示内容を入れ替え、リピーター増につながった。特にこれまで少なかった30、40代が多数来館。ツイッターなどでも好評意見が多く、話題となった。
- ・ 7月の記録的豪雨や9月に相次いだ竜巻の際には、視聴者から寄せられた多くの被害情報や映像提供の申し出を放送に生かした。また、ホームページでは、撮影する人への安全の呼びかけを掲載した。



「あまちゃん」  
『じぇじぇじぇ～展』PART 2

##### ■ 環境経営

- ・ 菖蒲久喜ラジオ放送所（埼玉県）の太陽光発電設備運用開始から9月で1年が経過。発電量は286万kWhに達し、CO<sub>2</sub>排出量を1,587t削減した。

##### 課題・今後の取り組み

14指標の世論調査が2年目に入り、指標の経年変化の分析が可能となった。今後さらに多角的な分析手法の開発を進め、視聴者の評価を経営に反映できるようにする。10月にNHKグループの事務系システム統合と関連団体の事務系共通業務の集約を行い、定着を図っていく。

## 4. 「改革・活力」

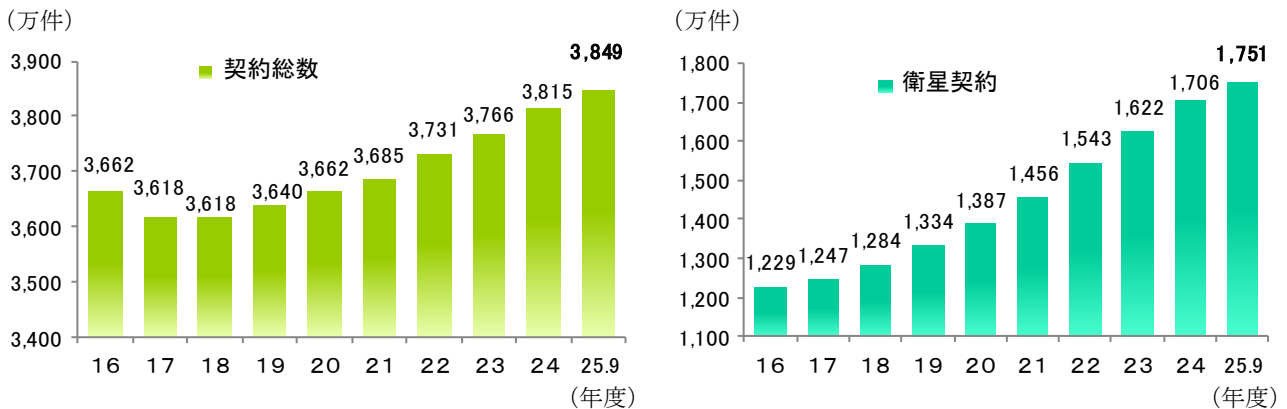
## ② 受信料を公平に負担していただくため、営業改革と受信料制度の理解促進に努めます

## 第2四半期の達成状況

営業改革の取り組みとして、「各種法人・団体との連携」において、NTTファイナンス株式会社との連携により、受信料を電話料金と一括して支払うことができる仕組みを構築した。これにより受信料支払いの一層の利便性向上が期待される。「効率的な業務体制の構築」に向けた契約・収納業務の法人委託拡大では、公開競争入札による委託は、全国39地区527万世帯となった。「民事手続きの強化」では、支払督促申し立てを今期450件実施するなど、営業改革は着実に進んでいる。

受信料制度の理解促進では、各地の放送局において、夏休みに各地で開催されるイベントや番組の収録機会などを利用し、参加者に向けた理解促進活動を積極的に展開した。

## ■ 契約数の推移



第2四半期は、契約総数は15.9万件増加し、25年9月末で3,849万件となった。衛星契約は19.6万件増加し、9月末で1,751万件となった。25年度の契約総数の増加数は累計で33.8万件となり、前年同期(30.9万件)を2.9万件上回った。衛星契約の増加数は累計で45.1万件となり、前年同期(44.7万件)を若干上回った。25年度増加計画(契約総数増加48万件、衛星契約増加69万件)に対する進捗率はともに前年を上回り堅調となっている。

## ■ 公平負担と営業経費抑制に向けた4つの営業改革

## (1) 効率的な業務体制の構築

- ・公開競争入札で契約・収納業務を受託した法人による業務実施地域は、39地区(527万世帯)となっており、8月から6地区(97万世帯)で業務を開始した。10月からは5地区(77万世帯)で新たに業務を開始する。また、小規模な地域を担当するエリア型法人委託は、138社、205地区において業務を実施している。
- ・法人が受託する地域の営業目標達成状況は、おおむね堅調となっている。

(参考)公開競争入札地域 目標達成状況  
(単位: 万件)

区分	25年度 4月～9月		
	目標	実績	達成率
総数取次	11.4	10.5	92.4%
衛星取次	4.4	4.6	103.9%



## (2) 民事手続きの強化

- ・今期の支払督促申し立て実施件数は450件となった。18年度の申し立て開始以降の累計では、実施件数4,755件、そのうち解決済み（支払済・分割支払中等）は3,880件となっている。
- ・民事訴訟では、25年9月末までの累計で76件（世帯に対して67件、事業所に対して9件）を提訴している。そのうち世帯は、48件が契約締結により解決し、2件がNHKの請求が認められる判決となっている。事業所は、6件が契約締結による解決となっている。

## (3) 契約・収納手法の開発

- ・「公共機関への調査等による住所変更等の届け出の省略」では、9月から、調査を依頼する自治体を町・村まで拡大した。調査により住所変更の手続きを実施した件数は、今期6,010件となり、調査を開始した24年10月からの累計は1万8,420件となっている。
- ・「書面による放送受信契約書の提出の省略」では、電話による受信確認メッセージの消去受け付けにおいて、衛星受信契約書の提出を省略しているが、契約書の提出の省略に関する案内をより分かりやすく改善し、取次数の向上に努めた。今期の取次数は4,727件となり、運用を開始した24年12月からの累計は1万413件となった。

## (4) 各種法人・団体等との連携

- ・NTTファイナンス社が提供する「くらし快適サービス・NTTtabal まるごと決済」を利用することで、受信料をNTTの電話料金等と一括して支払うことができる便利な方法を、10月10日から受け付けを開始することとなった。放送受信料を公共料金と一括して支払うことのできる仕組みは、これが初めてとなる。

### ■受信料制度の理解促進

#### ★全国各放送局での放送と連動した理解促進活動

- ・放送センターでは、NHKネットクラブの会員や大学生から参加者を募集し、「ニュースで英会話」（7/3）、「仕事ハッケン伝」（7/9）などでスタジオ見学や出演者との交流の機会を設け、公共放送や受信料制度の広報活動を行った。
- ・新潟局では、「長岡花火大会」をテーマにスーパーハイビジョンのパブリックビューイング（PV）を実施（8/4）。当日は受信料コーナーを設け、参加者からの受信料制度や受信契約などに関する質問に答えた。
- ・沖縄局では、沖縄出身のアーティストによるスペシャルライブの公開収録（8/31）に合わせ、大学生などに対して、リハーサルの見学や中継車の見学などを行うとともに、公共放送や受信料制度等についての説明を行った。
- ・福井局では、開局80周年記念ドラマ「恐竜せんせい」の試写会を実施（8/23）し、ドラマ制作にご協力いただいた方をはじめ、多くの方々が参加した。また、姫路支局で、来年の大河ドラマに連動して、「歴史セミナー 軍師！黒田官兵衛」を実施（8/25）した。それぞれの会場では、参加者に対して積極的に理解促進活動を展開した。



「ニュースで英会話」収録見学風景



スーパーハイビジョンPV会場での営業コーナーの様子（新潟局）



歴史セミナーの開催（姫路支局）

### 課題・今後の取り組み

3か年経営計画の折り返しとなるが、受信料値下げの影響を最小限にとどめるための全役職員による取り組みが、営業業績の成果につながっている。今後も、番組制作やイベント等あらゆる業務の場を活用し、全国の放送局が一体となった取り組みを継続していく。

## 4. 「改革・活力」

### ③ 放送・サービスの質を向上させるため、活力ある職場づくりをすすめます

#### 第2四半期の達成状況

公共放送を担う人材を確保するため、8月に「秋の採用試験」を実施し、全国からおおよそ3,000人の応募があった。給与制度改革を進め、一般職の考課制度に、期待役割と発揮能力の内容を反映するグレード制を導入した。

#### ■公共放送を担う人材の確保と育成

- ・ 8月に実施した「秋の採用試験」では、海外を含む全国の大学、専門学校の新卒者や職務経験者などおおよそ3,000人の応募があった。
- ・ 採用試験では、グループディスカッションを取り入れるなど、職種ごとに工夫を凝らした選考を行った。
- ・ 将来を見据えた学生のキャリア形成の施策として、8月と9月に「NHK報道記者インターンシップ」を初めて実施した。

#### ■士気の向上と職場の活性化

- ・ 給与制度改革についての諸手続きを進め、8月には一般職の考課制度を見直し、期待役割と発揮能力の内容を反映するグレード制と、それに伴う役割給を導入した。
- ・ 新制度導入に合わせて考課者向けの研修を行うとともに、全職員を対象に説明会を実施し、実績の適正評価と評価結果を育成につなげる制度改革趣旨の徹底に努めた。
- ・ 第2四半期は海外の企業・研究機関への派遣開始が8件あった。

#### 課題・今後の取り組み

公共放送を担う人材を確保するため、より効果的な採用周知活動を各地域で展開するとともに、選考プロセスについても、ディスカッションテーマの選定など、さらなる高度化を目指していく。

新しい職員制度の円滑な導入および給与制度改革の実現に向けた取り組みを引き続き進める。





4

## 參考資料 各指標

国内放送

国際放送

【質的指標】

- ・10 指標は、個々のチャンネルの質に対する視聴者のみなさまの評価。年4回、ネット調査を行い、結果を10点満点で、レーダーチャートで表示する。
- ・前期と比較して、統計的に評価が高まった指標を青丸、低くなった指標を赤丸で表記している。(今回は、該当なし)

【量的指標】

- ・接触者率、世帯視聴率について、ビデオリサーチ(関東)のデータから当該四半期平均と前期のデータを表記している。

【質的指標】

- ・「海外での評価」は、毎月6本ペースで視聴して報告を求めている一般公募のモニター(世界40の国と地域で実施)の評価を四半期ごとに集計し、まとめたもの。

【量的指標】

- ・「海外での視聴可能世帯」は、NHKが受信環境整備のために契約している各国・地域の放送事業者を通じて、視聴可能な世帯を四半期ごとに集計したもの。

	国内放送	国際放送																																																			
質的指標	<p>10指標評価(10点満点)</p> <p><b>総合</b></p> <p><b>Eテレ</b></p> <p><b>BS1</b></p> <p><b>BSP</b></p> <p>①丁寧な取材制作 ②正確・迅速 ③新しい切り口 ④社会的課題 ⑤次世代の育成 ⑥生活に役立つ ⑦人生を豊かに ⑧くつろげる・リラックス ⑨わくわくドキドキ ⑩感動・心に残る</p> <p>出所:平成25年9月7-8日実施インターネット調査</p> <p>中央審審の意見</p> <p>総合テレビで量的指標が回復し、質的指標でも「わくわく・ドキドキする」が向上していることに関して、脚本・音楽が良質で印象的であった「あまちゃん」が貢献したとの意見が出された。第2四半期全体としては、各波とも質的指標を高いレベルで維持していて、今後もこの水準を維持してほしいという意見であった。また、現在の指標に加え、視聴者がNHKに何を求めているのかについても調査を希望するという意見や、視聴者の期待に応えるとともに、世界全体の方向性など、国民が目をつけるべき課題を放送することも公共放送として重要であるという指摘があった。</p>	<p>海外での評価</p> <p>&lt;編集の基本方針として掲げた重点事項についての海外の番組モニター等の反響&gt;</p> <p>■「24時間英語ニュースの強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参議院選挙の報道について「日本の政治制度について分かりやすい説明があり、与野党の対立点なども取り上げられ丁寧な伝え方だった」、福島第一原発の汚染水問題については、「他のメディアの追隨を許さない徹底的なリポートだった。東京電力の対応と地元を受け止め方を公平に扱っていた」などの声が寄せられた。</li> </ul> <p>■「質のさらなる充実へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島で開催されたワールド・ピースコンサートについては、「1945年8月6日に広島で起きた悲劇の心の傷を思い起こし、全世界に向けて平和のメッセージを届けることは、犠牲者や遺族だけでなく海外の人々にとって大きな意味がある」などの反響があった。</li> </ul> <p>■「東日本大震災から復興していく日本の姿を海外に発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NHKスペシャルを英語化した「住民合意800日 葛藤の記録」には、「東日本大震災の被災地復興をめぐる住民合意がいかに難しいかという問題について、復興計画の遅れや結論が見出せない集會など、複雑で困難な状況が整理されて伝えられ、非常に分かりやすかった」との声が寄せられた。</li> </ul>																																																			
	量的指標	<p>接触者率(%) (個人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前四半期平均</th> <th>今四半期平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">週間リーチ【期間平均】</td> <td>総合</td> <td>67.5</td> <td>68.9</td> </tr> <tr> <td>Eテレ</td> <td>35.7</td> <td>37.6</td> </tr> <tr> <td>BS1</td> <td>17.6</td> <td>16.3</td> </tr> <tr> <td>BSP</td> <td>19.5</td> <td>20.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所:ビデオリサーチ(関東PMデータ)</p> <p>世帯視聴率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>総合</th> <th>Eテレ</th> <th>BS1</th> <th>BSP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6:00~24:00</td> <td>6.8 (6.2)</td> <td>1.0 (1.0)</td> <td>0.6 (0.7)</td> <td>0.6 (0.6)</td> </tr> <tr> <td>6:00~10:00</td> <td>9.2 (8.9)</td> <td>1.6 (1.8)</td> <td>0.6 (0.7)</td> <td>0.9 (0.8)</td> </tr> <tr> <td>19:00~22:00 (ゴールデン)</td> <td>10.5 (10.5)</td> <td>0.7 (0.7)</td> <td>0.8 (1.0)</td> <td>0.9 (1.0)</td> </tr> <tr> <td>19:00~23:00 (プライム)</td> <td>9.4 (9.4)</td> <td>0.6 (0.6)</td> <td>0.7 (0.9)</td> <td>0.9 (1.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所:ビデオリサーチ(関東世帯データ)</p>		前四半期平均	今四半期平均	週間リーチ【期間平均】	総合	67.5	68.9	Eテレ	35.7	37.6	BS1	17.6	16.3	BSP	19.5	20.1		総合	Eテレ	BS1	BSP	6:00~24:00	6.8 (6.2)	1.0 (1.0)	0.6 (0.7)	0.6 (0.6)	6:00~10:00	9.2 (8.9)	1.6 (1.8)	0.6 (0.7)	0.9 (0.8)	19:00~22:00 (ゴールデン)	10.5 (10.5)	0.7 (0.7)	0.8 (1.0)	0.9 (1.0)	19:00~23:00 (プライム)	9.4 (9.4)	0.6 (0.6)	0.7 (0.9)	0.9 (1.0)	<p>海外での視聴可能世帯</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>世帯数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アジア・太平洋</td> <td>2,111万</td> </tr> <tr> <td>欧州・中東・アフリカ</td> <td>1億4,687万</td> </tr> <tr> <td>南北アメリカ</td> <td>9,788万</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2億6,586万</td> </tr> </tbody> </table> <p>※一部視聴可能を含む NHKワールド・オンラインアクセス数 3,128万ページビュー</p>	地域	世帯数	アジア・太平洋	2,111万	欧州・中東・アフリカ	1億4,687万	南北アメリカ	9,788万	合計
	前四半期平均	今四半期平均																																																			
週間リーチ【期間平均】	総合	67.5	68.9																																																		
	Eテレ	35.7	37.6																																																		
	BS1	17.6	16.3																																																		
	BSP	19.5	20.1																																																		
	総合	Eテレ	BS1	BSP																																																	
6:00~24:00	6.8 (6.2)	1.0 (1.0)	0.6 (0.7)	0.6 (0.6)																																																	
6:00~10:00	9.2 (8.9)	1.6 (1.8)	0.6 (0.7)	0.9 (0.8)																																																	
19:00~22:00 (ゴールデン)	10.5 (10.5)	0.7 (0.7)	0.8 (1.0)	0.9 (1.0)																																																	
19:00~23:00 (プライム)	9.4 (9.4)	0.6 (0.6)	0.7 (0.9)	0.9 (1.0)																																																	
地域	世帯数																																																				
アジア・太平洋	2,111万																																																				
欧州・中東・アフリカ	1億4,687万																																																				
南北アメリカ	9,788万																																																				
合計	2億6,586万																																																				
コストに対する効果	<p>計画額以下での実施(第1,3四半期で報告)</p> <p>【参考】 第1四半期末進捗率 24.1%</p>	<p>VFM(目標1以上)</p>	<p>【参考】 24年度 1.83</p>																																																		

※10指標評価の分母は各波、サービス月に1回でも接触した人。塗布部分は、質的指標で特に意識する領域。青丸は前期と比較し統計的に評価が高まった指標、赤丸は各波の中で統計的に評価が低くなった指標(今回は、該当なし)。括弧内は、前期の結果。指標によって報告タイミング(四半期、半期、年)は異なる。

## 技術・デジタル関係

### 【質的指標】

- デジタルサービスの満足度は、NHKが実施しているサービス（NHKデータ放送等）について、年4回ネット調査を行い、結果を10点満点で表記している。

### 【量的指標】

- デジタルサービスの接触についても、年4回ネット調査を行い、結果を%で表記している。

## 視聴者関係等

### 【質的指標】

- 公開番組・イベントに参加した視聴者の満足度等を測定する。

### 【量的指標】

- 受信料の支払率および収納率等により、受信料公平負担の進捗状況を測る。

$$VFM \text{ (Value for Money)} = \frac{\text{NHKが生み出した価値額(視聴者の支払意思額の合計)}}{\text{(コストに見合う成果)} \quad \text{NHKの事業支出額(決算)}}$$

※視聴者の支払意思額の合計 = 地上放送および衛星放送に対する支払意思額×契約数の合算  
 ※世論調査により、年度ごとに公表

	技術・デジタル関係	視聴者関係等																						
質的指標	<b>放送審の意見等</b> ■ 第142回放送技術審議会にて(7/29) <ファイルベース化に関する意見> ・是非NHKにはファイルベース化を先導的に進めてほしい。 ・ニュース番組のファイルベース化は、全体としてワークフローの効率化に向け、現場と開発部門が一体となって整備を進めたから、これだけ大きなシステムが完成したと感じた。 ・旧来のテープシステムからファイルベースシステムへの移行は、短時間に多くの人が大量の整備を進め、併せて人材育成も実施しなければならず、大変な難しさがあったと感じた。 <今後のNHKに要望・期待する意見> ・民放や海外の放送機関との素材共有も考慮し、カメラフォーマット等の規格を検討してほしい。 ・映像の検索機能など、ファイルベース化による付加価値を意識して開発を進めてほしい。 ・東日本大震災では放送されていない原券映像等が多く残っていると思うので、ファイル化された映像を様々な関係者に再利用させ、様々なビックデータとの連携も検討してほしい。 等の意見が寄せられた。	<b>公開番組・イベントの参加者満足度</b> 82.7% (82.6%) <目標80%> ・全国で92件の公開番組・イベント参加者を対象に「満足度」や「NHKへの理解度」などについてアンケートを実施した。 ・サンプル数としては、およそ3万人。 (下段「公開番組・イベントにおける理解促進度」も同一調査) ・「満足度」は、「今回のイベントに参加していかがでしたか」という設問に対し、「満足」「やや満足」という回答の割合。 ※括弧内は、前期の結果																						
	<b>デジタルサービスの満足度(10点満点)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>デジタルサービス</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">NHKで放送されている番組をより楽しむための情報・サービス</td> <td>NHKデータ放送</td> <td>6.7 (6.7)</td> </tr> <tr> <td>パソコン向けのNHKの情報・サービス</td> <td>6.6 (6.5)</td> </tr> <tr> <td>携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス</td> <td>6.3 (6.3)</td> </tr> <tr> <td>NHKネットラジオ</td> <td>6.5 (6.5)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">番組に関連せず、単独で楽しむことができるNHKの情報・サービス</td> <td>NHKデータ放送</td> <td>7.0 (7.0)</td> </tr> <tr> <td>パソコン向けのNHKの情報・サービス</td> <td>6.4 (6.2)</td> </tr> <tr> <td>携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス</td> <td>6.3 (6.1)</td> </tr> <tr> <td>NHKオンデマンド</td> <td>6.5 (6.2)</td> </tr> <tr> <td>NHKオンデマンド以外の動画配信・共有サービス</td> <td>6.4 (6.4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所：平成25年9月7-8日実施インターネット調査                      (下段「デジタルサービスの接触」も同一調査)</p>	デジタルサービス	満足度	NHKで放送されている番組をより楽しむための情報・サービス	NHKデータ放送	6.7 (6.7)	パソコン向けのNHKの情報・サービス	6.6 (6.5)	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.3 (6.3)	NHKネットラジオ	6.5 (6.5)	番組に関連せず、単独で楽しむことができるNHKの情報・サービス	NHKデータ放送	7.0 (7.0)	パソコン向けのNHKの情報・サービス	6.4 (6.2)	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.3 (6.1)	NHKオンデマンド	6.5 (6.2)	NHKオンデマンド以外の動画配信・共有サービス	6.4 (6.4)	<b>公開番組・イベントにおける理解促進度</b> 70.2% (70.5%) ・「理解促進度」は、「今回のイベントに参加して、放送やイベントなどNHKの活動について理解が深まったか」という設問に対し、「以前より深まった」という回答の割合。 ※括弧内は、前期の結果
	デジタルサービス	満足度																						
NHKで放送されている番組をより楽しむための情報・サービス	NHKデータ放送	6.7 (6.7)																						
	パソコン向けのNHKの情報・サービス	6.6 (6.5)																						
	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.3 (6.3)																						
	NHKネットラジオ	6.5 (6.5)																						
番組に関連せず、単独で楽しむことができるNHKの情報・サービス	NHKデータ放送	7.0 (7.0)																						
	パソコン向けのNHKの情報・サービス	6.4 (6.2)																						
	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.3 (6.1)																						
	NHKオンデマンド	6.5 (6.2)																						
NHKオンデマンド以外の動画配信・共有サービス	6.4 (6.4)																							
<b>デジタルサービスの接触率(%)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>デジタルサービス</th> <th>接触率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">NHKで放送されている番組をより楽しむための情報・サービス</td> <td>NHKデータ放送</td> <td>13.7% (12.0%)</td> </tr> <tr> <td>パソコン向けのNHKの情報・サービス</td> <td>12.4% (11.9%)</td> </tr> <tr> <td>携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス</td> <td>6.1% ( 5.4%)</td> </tr> <tr> <td>NHKネットラジオ</td> <td>7.3% ( 6.4%)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">番組に関連せず、単独で楽しむことができるNHKの情報・サービス</td> <td>NHKデータ放送</td> <td>17.8% (15.2%)</td> </tr> <tr> <td>パソコン向けのNHKの情報・サービス</td> <td>11.7% (11.0%)</td> </tr> <tr> <td>携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス</td> <td>6.1% ( 5.9%)</td> </tr> <tr> <td>NHKオンデマンド</td> <td>5.1% ( 4.4%)</td> </tr> <tr> <td>NHKオンデマンド以外の動画配信・共有サービス</td> <td>8.7% ( 9.5%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>NHKオンラインアクセス数(PCサイト) <b>16億6,400万ページビュー(14億6,300万ページビュー)</b></p>	デジタルサービス	接触率	NHKで放送されている番組をより楽しむための情報・サービス	NHKデータ放送	13.7% (12.0%)	パソコン向けのNHKの情報・サービス	12.4% (11.9%)	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.1% ( 5.4%)	NHKネットラジオ	7.3% ( 6.4%)	番組に関連せず、単独で楽しむことができるNHKの情報・サービス	NHKデータ放送	17.8% (15.2%)	パソコン向けのNHKの情報・サービス	11.7% (11.0%)	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.1% ( 5.9%)	NHKオンデマンド	5.1% ( 4.4%)	NHKオンデマンド以外の動画配信・共有サービス	8.7% ( 9.5%)	<b>支払率</b> 73.8% (9月末支払数 3,702万件) <b>収納率(9月末値)</b> 96.2% (前年度末比+0.3ポイント) <b>受信料収入額(9月末値[速報])</b> 3,167億円 (前年同月比△129億円)	
デジタルサービス	接触率																							
NHKで放送されている番組をより楽しむための情報・サービス	NHKデータ放送	13.7% (12.0%)																						
	パソコン向けのNHKの情報・サービス	12.4% (11.9%)																						
	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.1% ( 5.4%)																						
	NHKネットラジオ	7.3% ( 6.4%)																						
番組に関連せず、単独で楽しむことができるNHKの情報・サービス	NHKデータ放送	17.8% (15.2%)																						
	パソコン向けのNHKの情報・サービス	11.7% (11.0%)																						
	携帯電話やスマートフォン向けの情報・サービス	6.1% ( 5.9%)																						
	NHKオンデマンド	5.1% ( 4.4%)																						
NHKオンデマンド以外の動画配信・共有サービス	8.7% ( 9.5%)																							

NHK